

Title	編集後記
Sub Title	
Author	深海
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.12 (1964. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19641201-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

世界経済が今や転換期にあることは、多くの人々によって認められており、世界経済発展のための新しい方向が摸索されている。その一つの象徴が、本年三―六月にジュネーブで開催された国連貿易開発会議であらう。

日本にとつても、この新展開の中で、いかなる態度をとるべきかが問題であり、それとともに、開放体制・自由化への移行にとりまわす諸問題が、論議の中心となっている。

しかし全般的に、我が国における論議は、底が浅く、流行に支配されるきらいが強い。それは学界においても、同様であらう。

国際経済学の分野でも、今や転換期にあり、全く混乱した状態にある。その点は、大山氏の学界展望によって明らかであり、この十月に神戸で行なわれた学会での共通テーマたる「世界貿易の進路」をめぐる論議においても、進路というべきものは、理論・実証・政策の面で、何一つ見出されてなかつたといつても過言ではなからう。ここでとくに感じられたのは、新しい方向づけがいかに困難であるかということであり、同時に、一層の理論的・基礎的研究がまず必要とされるときに、現実の世界経済の展開・要請に応じて、理論・政策をいかに発展させていくかがもう一つの大きな課題とならう。むしろ、現実へのなまなましい関心、実証的研究、現地調査研究が、理論的展開への着想、有益な示唆・方向づけを与えるように思える。

東南アジアへの五十日にわたる現地調査を明日にひかえて、こんな意味での期待と抱負をもっている。(二九六四・一〇・一四)

(深海)

昭和三十九年十二月一日発行

◎ 三田学会雑誌 第五十七卷 第十二号

定価 一二〇円(送料)

編集兼
発行人

代表者 遊 部 久 蔵

電話三田(53)二一一一
振替口座番号 東京四四〇五六

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

印刷者

東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
安 倍 七 郎

半カ年予約購読料(送料共) 七二〇円

一カ年 " " 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所

東京都高輪局区内三田綱町一番地
慶 應 通 信
振替口座番号 東京一五五四九七